

○議員（4番 春田 新一君） 皆さん、おはようございます。新政会の春田新一でございます。

質問の前に、市長の行政報告の中にもありましたように、混乗について少し話させていただきます。

北部の皆さんが悲願でありました混乗便が7月23日に、比田勝港から第一便が博多港へと出航いたしました。出航後の乗船率は、7月が3往復で76%、8月が6往復で50%となっており、便数も少なく不定期であったため、乗船率が伸び悩んでいるというふうに思われます。そしてまた、8月については、台風の影響で欠航というところもあったんじゃないかなというふうに思っております。これも、増便と定期化を原則、行政のほうでお願いをしていただきたいというふうに思っております。

また、対馬島民は国境離島新法など割引されていますが、島民以外は割引がないということで、これもいろいろな模索をされながら、公的補助があれば、PRもしやすく、観光客も呼び込んでいけるのではないかなというふうに思っております。

聞くところによりますと、対馬からの乗船率はまだまだいいほうであるというような状況であります。向こうから、福岡のほうから乗ってくるのが少し少ないんじゃないかというような話でもございますので、そこら辺も行政のほうに力を入れて、お願いをしたいと思っております。

また、地元では、乗船率を上げるため、利用促進に向けた協議会を設置しようという声も上がっております。この混乗便就航に長年活動をされました期成会の皆さんを中心として、協議がなされているというふうに聞き及んでおります。行政と一緒に、このような推進協議会がつけられることを私たちも望むわけですが、私たち北部の議員、山本議員、坂本議員、そして私と3人も一緒になって、知恵を絞りながら、この方向を出していきたいというふうに思っておりますので、行政のほうも、市長を混ぜてよろしくお願いを申し上げます。

また、今後のスケジュールにつきましては、9月が7往復、10月が10往復、11月が15往復、12月が22往復というふうに、非常にダイヤも安定してきているのではないかなというふうに思っております。

このように、不定期じゃなくダイヤが安定すれば、乗船客もまた伸びるんじゃないかというふうにも考えております。そこら辺も今後の課題になろうかというふうに思いますが、行政と北部住民の皆さんと一緒に取り組んでいくべきではないかなというふうに思っておるところでございます。

それでは、今回3項目、5点について質問をさせていただきます。

昨日の小島議員、大部議員の質問と3項目めはかぶりますので、答弁は割愛されても結構ですので、よろしくお願いをいたします。

それでは、1項目めの対馬市の観光施策と北部の観光振興についてということで、質問をさせ

ていただきます。

この1項目めにつきまして、北部地域の、特に千俵蒔の観光ルートに向けての取り組みということでお尋ねをするわけですが、このことにつきましては、大浦議員も3回ほど質問されております。それでまた、会派代表質問で、山本議員も1回質問され、私が今回で、関連も入れまして3回目になるのかなというふうに思っております。それだけ、私たちも強い意を持って質問を、今回させていただいておりますので、どうぞその辺も御理解をいただいて御答弁をお願いしたいというふうに思います。

多くに、対馬市の観光施策は大陸との交流の歴史、そして文化、豊かな自然豊富な、海や山の資源にこれをアピールして活動を行われているというふうに思っております。また、今後においても、市民や観光で訪れる皆さんの利便性が図られる観光振興でなければならないというふうに思っております。

観光客の多くは、対馬の豊かな自然を見て、触れて、体験して、感動されているというふうなことで2度、3度、5度と足を運んでおられるというふうに思います。これらも、この豊かな自然や歴史・文化、保存や保護するためにも、観光ルートの整備等に取り組んでいかなければならないんでないかなというふうに思っているところでございます。そこで今回、北部地域の、特に千俵蒔の観光ルートに向けて、取り組みについて、再度お尋ねをするわけでございます。

北部の観光箇所はありますが、滞在時間の稼げるルートが非常に少ないというふうに思います。観光客に1泊をしてもらうためにも、井口浜から千俵蒔山までの道路の拡幅についてお尋ねいたします。

拡幅といいましても前回、市長の答弁もありましたように、多額の予算がかかるということで、非常に難しいというような答弁でございましたが、その後に、進捗についても伺いたいというふうに思います。

1つ紹介をさせていただきますが、観光客は県内でも、対馬だけが大きく増加をしている。韓国人観光客だと思います。観光消費額、県全体が172億円程度で、対前年度比4.8%増。県内で唯一増加しているということでございます。島の宿泊施設は、平成28年4月現在で125施設、2,754人収容される宿泊施設ということでございます。

また、平成29年3月には、東横イン対馬厳原、同年11月にはホテルテマド比田勝がオープンするなど、収容人員も大幅に増加し、受け入れ態勢も整ってきたと思います。また、平成29年の韓国人観光客数は前年比37%増の35万6,316人となり、過去最高を記録しております。

この韓国の観光客の目的としてトレッキング、あるいは今、対馬でも取り組んでおりますサイクリング、魚釣り、ショッピングなどが多いということでもあります。特に、対馬の自然を満喫す

ることが人気であるというふうにも聞き及んでおります。また、この4割近くが日帰り
3,000円前後の日帰りツアーということで、非常に使いやすいツアーになっているので、そ
の辺も利用されているんじゃないかなというふうに思います。

そういうことで、その日帰りじゃなくて、ルートをつくっていくことで宿泊ができるというよ
うなところまで追い込んでいかなければいけないのではないかなというふうに思います。

また、比田勝に、三宇田の横のソモヤに東横インが建設中でございます。来年の7月には完成
と聞き及んでおります。そこら辺も含めて、宿泊ができる体制も行政に課せられるんじゃないか
なというふうに思いますので、そこら辺を改めて答弁をお願いいたします。

次に、2項目めの生活環境、安全・安心な施設の運用対策についてということで質問をさせ
て頂きます。

私、この厚生常任委員会の所管であります。し尿処理あるいは北部クリーンセンター等々あ
りますが、初めて質問をさせていただくんですが、よくわからない点もございますので、御理解
をいただきたいというふうに思います。

し尿処理施設は美津島町に巖美清華苑が平成14年から稼働し、処理規模は1日当たり60キ
ロリッターですね。また、豊玉町に対馬中部クリーンセンターが平成27年4月から稼働し、ほ
ぼ1日当たりの処理量は23キロリッター、それと、上対馬町に対馬北部衛生センターが平成
18年4月から稼働しており、ここも1日当たり27キロリッターということで、3カ所のし尿
処理施設により処理されていますが、観光客の、先ほど申し上げましたように、増加あるいは宿
泊施設もふえていく中で、浄化槽の普及により汚泥が増加すると思いますが、北部衛生センター、
中部クリーンセンターについては、現状問題なく順調に処理されているというふうに聞き及んで
おりますが、巖美清華苑につきましては、今後、施設の老朽化で処理能力が低下することも考え
られます。

今後において、処理量も増加すると予想されるが、その対策について、どのようにとらえてあ
るのか、どのような計画がなされてあるのか、お聞きしたいと思います。

次に、3項目めの、きのうも質問、いっぱい出ておりましたが、教育委員会のほうに質問させ
ていただきます。

市立小中学校の通学路の安全対策と校内整備についてということで通告をしておりました。き
のう、非常に同じような質問があります。ダブるというふうに思いますが、方向を少し変えて質
問をさせていただきます。

きのうもありましたように、6月の大阪北部地震で、小学校のブロック塀が倒壊し、女子生徒
が死亡した。この事故を受けて、ブロック塀の対策が全国的に打ち出されたわけでありませ

点検・実施されたと思いますが、その中で長崎県、本当に26%という実施、全国で最低とい

うふうに報道されておりました。これは、小さな損傷については応急処置の緊急性が低いとの判断だったというふうに考えます。これについて、教育委員会の現場の点検の結果と今後の対策について、お尋ねをいたします。

また、私のほうでは、この通学路についても質問をしたいと思います。

その通学路を通るところのブロック塀も非常に傾いているところも見受けられます。今はほとんどバス通学がふえておりますが、子どもたちが通学するところで点検をされているならば、どのような対策をとっていかれるのか、その辺をお尋ねしたいと思います。

それからもう1つ、校内整備について、学校現場からの要望等は非常に多くあっていると思います。教育委員会としては、どのようなとらえ方をしてあるのか、そのとらえて、支援策についてお伺いをいたします。

教育施設の中でも、学校施設は児童生徒が1日の大半を過ごす場所であり、学習・生活の場として安全・安心で、さらに快適な教育環境を整備する必要があるというふうに思います。

災害時には、地域の人々の緊急避難所としての役割も求められるところでございます。全ての学校施設において老朽化が著しく、修繕等も大規模修繕あるいは年々増加傾向にあると思います。小規模への修繕について、教育委員会に改めて質問をさせていただきます。その対処の仕方、そういうものを含めて、答弁をお願いしたいと思います。

以上、質問を終わりますので、答弁をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） おはようございます。春田議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目の北部地域の観光振興についてでございますが、千俵蒔山の道路整備につきましては、以前から、北部地域の観光ルートとして御意見をいただいております。

議員も御存じのとおり、千俵蒔山山頂へのアクセス道路は、市道井口千俵蒔山線2.9キロメートルと井口浜線1.9キロメートルの2路線があり、主に、林業用道路として利用されておりますが、観光バス等の大型車両は通行ができない状況でございます。普通車の通行につきましては、平成20年から千俵蒔山の草原を再生させるため野焼きが復活され、発電用風車の建設やパラグライディング大会が実施されていることもあり、平成24年度に市道井口千俵蒔山線において離合できるよう、待避所を5カ所程度整備実施するなど、改良に取り組んでおりますが、まだ不十分と認識しているところでございます。

前回の御質問の後、大型観光バス乗り入れのための道路整備が可能かどうか、検討をしてみました。現道は幅員が3メートル前後と狭く、急カーブで高低差も大きいので、井口浜側を起点に、幅員5メートルで全線を改良した場合、延長3キロメートルの改良が必要であり、概算事業費で十数億円が必要との試算結果となりました。

対馬市といたしましても、道路整備の必要性は十分認識いたしておりますが、現在の観光客の利用状況や、今後、大型の道路事業を控えており、現段階での実施は困難と考えております。

なお、議員が以前から一泊できるルートづくりのためには、観光地ルートづくりが重要と提案されておられることから、そのルートづくりのための質問であると認識しております。その考えは私も一致しており、滞在型の観光客をふやすため、対馬振興局とも連携して基盤整備事業、滞在型観光促進支援事業など、トレッキングコースの整備やサイクリングレーンの整備、観光資源の掘り起こし、観光メニュー開発などに取り組んでおります。

また、北部地域の活性化と将来のまちづくりを含めた観光道路網対策も進めていく必要があると考えており、今後とも観光客の動向を注視してまいりたいと思いますので、御理解のほど、よろしく願いをいたします。

次に、し尿処理の運用対策についてでございますが、初めに、本市のし尿処理の現状を申し上げます。

し尿及び浄化槽汚泥の施設への年間搬入量は、し尿で3万2,836リットル、浄化槽汚泥で1万1,055キロリットル、合計で4万3,891キロリットルで、2トン車のバキュームカーに換算いたしますと、2万5,101台が搬入され、処理されております。

おのおのの処理施設ごとでは、ことしの3月議会でも申しましたとおり、上対馬町の北部衛生センターの1日当たりの処理能力27キロリットル、豊玉町の中部クリーンセンターでは、1日当たりの処理能力23キロリットルで、ほぼ同量の処理量となっております。美津島町にあります厳美清華苑につきましては、近年の外国人観光客の増加に伴い、1日当たりの処理量も増加してきており、1日平均5キロリットルの浄化槽汚泥を中部クリーンセンターへ移送して処理を行っております。

これは平成25年度に策定しました対馬市一般廃棄物処理基本計画の中長期的対策で、市が所管する3施設で能力の不足分を相互に補完し、市全体の処理体制を構築するとの定めに沿って行っております。

このような現状を踏まえて、今後の対馬市の人口と観光客の推移とを勘案し、現在、処理量が不足している美津島町の厳美清華苑の処理能力増量を試算し、1日の処理量を、現在の60キロリットルから81キロリットルまで増量することで、対馬全体の処理稼働率が91.8%となり、各施設での稼働率が安定する方向で運用対策が図られるものと考えております。本年度は施設改良工事に向けて、施設周辺の環境影響調査及び設計業務を実施し、平成31年、32年度の2カ年で本工事を実施する予定としております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 通学路の安全対策と校内整備についてでございますが、まず初めに、通学路の安全対策についてお答えをいたします。

本年5月、新潟市において、小学校2年生の女儿が下校途中に連れ去られ殺害された事件は記憶に新しいところでございます。また、通学中の児童が被害者となる交通事故も全国的に、毎年のように起きております。本市におきましても、通学中の児童の安全確保は重要な課題となっております。

交通事故防止対策としては、平成24年に対馬市通学路交通安全プログラムを策定し、教育委員会、各小学校、警察署、道路管理者等の関係機関が連携し、必要に応じて、通学路の緊急合同点検を行っております。歩道整備や防護柵の設置、それから、議員指摘のブロック塀の安全性などのハード面や交通規制や交通安全教育のようなソフト面など、有効な対応を協議し、現地に合った対応策を講じているところであります。

通学路の安全点検実施については、交通事故防止に加えて、今回、防犯の観点から危険があると認められる箇所について、各学校に報告をお願いしているところでございます。これを受け、本年9月末までに、関係機関と連携した緊急合同点検を実施する予定としております。

次に、校内整備に対する要望についての対応でございますが、対馬市の学校施設は建築年数が古く、老朽化が著しい学校も多く存在します。毎年、学校からは多くの要望が寄せられ、振興計画に計上したり、維持補修費の中で対応したり、環境改善に努力しているところですが、学校数も多く、十分な対応ができていないのが現状であります。

学校施設もいろんなところが傷んでいる学校もあり、少しずつ改修しているところですが、なかなか追いついていかない状況にあります。9月補正予算にも、各小中学校の修繕経費を計上し、順次対応しながら安全・安心な学校の維持管理に努力しているところです。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 御答弁をいただきましたので、少し整理をしていきたいと思ます。

まず最初に、市長、私は行政報告についてと、私の意見をちょっと述べさせていただいたんですが、それについて、少し今後、定期的に船が動かされるのか、それとまた、最後に言いました協議会についてどのような、行政側では考えてられるのか、そこら辺を少し聞かせていただきたいというふうに思います。そこをまず1点、お願いします。

○議長（小川 廣康君） 混乗問題、通告外ですけど、答弁できますか。できればお願いします。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 1点目の混乗の今後の運航体制ということでございますが、この10月

の10日過ぎからは、月、火、水、木、これが定期化されることになっております。もう既に、運行ダイヤも発表をされているところであります。そしてまた、この正月の間は、12月が28日と31日でしたでしょうか。博多からの往復が運行される予定となっておりますし、今現在は、26席ではございますけども、これをその繁忙期だけ、例えば、正月とか盆とか、そういうときだけ、2階席全部の78席を国内用として活用したいというお話も聞いているところでございます。

次に、この協議会の件でございますけども、これまでも、協議会といたしましては、北部地区のほうで結成をしていただいて、この混乗の実現のために、いろいろとお力を貸していただいたところでございますけども、今後も、今度は活用していくための、そしてまた、この航路が未来永続、存続させていくためにも、お力添えをお願いしたいという思いで、この協議会のほうも存続をしていただきたいというふうに、存続といえますか、新たに、また結成をしていただきたいという思いでおります。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 大変通告外で申しわけなく思います。観光の方面で関連になりますので、お聞きいたしました。

今、市長のほうからありました協議会の地元のほうでということでもありますので、我々も、その地元のほうで、一緒になって、協議会設置に向けて努力をしていきたいというふうに思っております。今後もこの船の定期便に沿うようなあり方について、また、行政側もひとつ、御努力をお願いしたいと思います。

それでは、質問に戻ります。

市長、今答弁延べられました千俵蒔山の件でございますが、道路の拡幅が非常に狭いのでバスが通れない。前回もこのお話はしたんですが、このバスが上まで行って、千俵蒔山の頂上まで行って、それからトレッキングというようなところも望まれるわけですが、私は対馬一の景勝地になるのではないかなというふうに思っております。

今少し、頭の中を整理しますと、やはり、上、中、下といったような大々的な観光地が必要ではないかな。そうすることで、地元の観光消費額も均等になっていくのではないかなというふうに思っているわけですが、これは私の考え方であります。そこら辺も考えると、どうしても上県町の千俵蒔山をルートにして改良していかなければいけないのではないかなというふうな思いです。非常に大きな予算がかかるという今、答弁でございましたが、そこをどうかクリアできるように、行政側で努力をしていただきたいというふうに思います。

朝鮮海峡が見える展望所になると考え、また、先ほども市長のほうから触れられましたが、千

俵蒔山の草原再生プロジェクトが2007年から立ち上げられておると聞いております。これは地域の方々に野焼きをされるというようなことで、一生懸命、地域を上げて取り組まれております。

また、風力発電事業も、民間事業が運営をされるようになりました。本当に大きな風力発電が1基設置されております。北部地域のランドマークとして一般市民に開放され、まだなお開放されておるところであります。また、先ほども市長言われましたように、パラグライディング大会、あるいはアジサイ祭り等、地域の方々の思いで継続をされているというふうに認識をしております。

このことをしっかりとらえられて今後の北部観光振興、そしてまた、地域振興策に行政側として一生懸命取り組んでいかなければいけないのではないかなというふうに感じているところでございますが、非常に予算面で厳しいところがあるということですが、市長、その予算がかかるから、外の方向で何か考えはないでしょうか。考えがありましたらひとつ、一緒になって考えていかなければいけないところですが、行政側のほうで、何かいい考えがあれば、また、その方向でいきたいと思っております。

非常にこの風力発電、大きな羽根が回っておりますが、対馬やまねこの昇り口から見ますと、ゆっくり回っているんですね。回転してるんですよ。これが本当に、北部の上県のランドマークというふうに、私は感じて見たわけですが、もったいないところだなというふうにも気づきました。そこでまた今回、質問をしたわけですが、なかなかこのような景観のいいところはないんじゃないかなというふうに思います。

中のほうには、烏帽子岳があります。上のほうに佐護の展望所ができれば、非常にいい観光ルートになるわけでありまして。そこら辺を市長、ありましたら、少し答弁をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 議員おっしゃられるように、私自身も千俵蒔山からの眺望のすばらしさは十分認識しているところでございます。しかしながら、冒頭申しましたように、この井口浜から頂上までのルートが、勾配が8%から10%程度になるというようなことで、改良事業としては、なかなか厳しいものがあるというようなことでございます。

そういう中で、今後のコースと申しますか、改良していく中では、先ほど申しましたように、試算したところ、十数億円がかかりそうだと。まして、ここの土質は転石まじりのため、地盤条件がよくないということで、その対策も必要であろうというようなことを、担当課のほうとも話をしているところでございます。

そういうことでありまして、まず初めに、道路の改良に入る前に、トレッキングコース等を、今の現道をトレッキングコースとしてもいいし、また、ここに林道が入っているそうであります。

この林道を活用したトレッキングコース等を検討してまいりたいというふうに考えております。

なお、今、韓国人観光客は、約36万人近くが訪れておりますけども、どうも担当部のほうと話をしておりますと、ただ、道路がないからかもしれませんけども、今のところ、この千俵蒔山を訪れている韓国人観光客の方は、残念ながら、今は少ないといったような状況でありますので、今後、この千俵蒔山をもう少し、観光PRとして取り組んでいくことが必要ではないかというふうに考えているところであります。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 大体見えてきましたが、非常に多額の予算がかかるということでございます。

先ほど、市長のほうからありました韓国人観光客35万6,316人という数字でございます。そうして、前々回の答弁の中でありました1人当たり消費額、2万円前後というような話でした。そうしますと、70億円というような観光消費額が上がっているわけであります。本当、この観光客がいなかったら対馬はどうなるんだろうかというような、今のところまで来ております。そこに予算がかかるからだめですよということじゃなくて、やっぱり前向きに検討して行って、どういうふうにしたらいいのか。

結局、今言われました観光客が訪れてないということは、道路がないから訪れられないというような状況にもありますので、そこら辺もツアー会社あるいはバス会社等の考え方でそうなるんでしょうから、そこら辺をトレッキングコースにするのか。ある程度、井口浜のところ駐車場をつくって、どうやっていくのかというような方向性を見出していかないと、いつまでたってもそのままになりますので、そこら辺を今後検討されて、このルートにつきましては、ぜひぜひお願いをしたいというふうに思います。1項目めはこれで終わります。

続きまして、2項目めに入ります。

先ほど言われました中部、北部というのは非常に順調にしている。しかし、この北部も東横イン、243名が入るようになれば、一集落が人口がふえるというような形でし尿が出るんじゃないかなというふうな、概算的な私の単純な考えですが、一部落というようなことになってくるんじゃないかなというふうに考えたら、やはり、今は順調でも、そこがオープンすれば、非常に厳しくなってくるんじゃないかなということも考えられます。

そういうところで今、厳美清華苑が、特にお盆にお正月は、非常に家庭の人方もトイレをきれいにしたいということで、くみ取り業者の方も非常に忙しい繁盛期になるわけですが、そこで1回、厳美清華苑に搬送ができないで、北部まで搬送しなければならないような状況があったというふうにも聞き及んでおります。そこら辺も、解消できるようになるためには、やはり80キ

口、これも今60キロで、120%マックスが幾らかわかりませんが、そのような状況だろうというふうに思っております。これを80キロにしても、さてどうなのかなというふうな状況になってくるんじゃないかなというふうに思います。

非常に、し尿につきましては厳しい状況で、また、老朽化も乏しくなってきました。水だけじゃありませんので、非常に難しい状況になってきますが、対馬も、島が長いために3つ要るわけですが、島が細ければ1つでもいいわけですが、3つあるということで、非常に財政も厳しい折であります。やはり、厳美清華苑については、大々的に改修、改装、増築をされるように、強く望みます。そうしないと、業者の方も大変だし、あと、住民の方の生活環境の安全・安心につながっていかないのではないかなというふうに思いますので、行政は、それが市民に対するサービスですので、そこら辺は頭に入れて、今後、大々的な増築、改築等を考えていただきたい。

北部、中部については、今の現状でやって順調だということですから、まあまあ、あそこについてはいいですが、今度は、厳美清華苑の分を運び込むときの量がまた違うんですから、厳美清華苑がネックですから、そこをやはり、大きな改良、増築をされるのが望ましいというふうに思います。ぜひぜひ、2年、3年と言わず、1日も早く建設を、住民の皆さんの期待に沿えるようにお願いをしたいというふうに思います。

また、厳美清華苑の下にありますクリーンセンターですね。そこで生ごみを収集して堆肥をつくっていくというような事業がなされております。非常にいい事業であります。再資源の有効活用ということで、かっこいい言葉ではございますが、非常にそれが今、成り立っていないという現状じゃないかなというふうに思います。

非常に生ごみの出方が少ないので、その機械が機能していないというような状況の中にあります。そのこともひとつ、いろいろと検討されて、この2基も座っておる機械が1基しか稼働していないということですから、そこら辺も対策を考えるべきじゃないかなというふうに思います。

それから、厳美清華苑でし尿処理、ごみですね。堆肥化をしてあるわけですが、その堆肥化の肥料が非常に多く利用されなくて、活用されなくて、在庫が残っている状態です。今のところ、2万俵というような俵数で残っているということ、これが、1俵12キロのキロ数で、金額が100円で販売をされているというような話でございますが、当初、私が聞いたときには無料ということでしたので、そのときには、非常に順番待ちをするような状況で収集にこられていたというような状況で、100円になって、総在庫が残るようになった。なぜかな。

まあまあ、これは皆さんも考えてすぐわかる。結論は出ることなんですが、それ以上に、中の成分的な、非常になりかねない部分もあるんじゃないかなというふうな所も考えられるんですよ。そこら辺も検討されながら、そしてこの100円というのもネックですから、何とかこの100円、料金をなしで何か月間かは販売をして在庫を減らすというような計画も立てられて、

敷地の中にいっぱい積んであるんですよ。だから、そこら辺もやっぱり検討されて、そのまま来たものをどんどん積み上げるじゃなくて、何とか内部で検討されて破棄されるような状況をつくらなければ、たまるだけで、どうしようもないんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺を、部長でもいいですので、市長、ひとつどのように考えられるか、お尋ねいたします。

○議長（小川 廣康君） 春田議員に申し上げますが、先ほど、部落という言葉が使われましたので、今後、そういう注意をよろしく願いをしておきたいと思います。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 厳美清華苑の肥料の件については、担当部長のほうに答えさせます。

○議長（小川 廣康君） 市民生活部長、根メ英夫君。

○市民生活部長（根メ 英夫君） お答えをいたします。

まず、厳美清華苑で生産しております肥料につきましては、ありねよしという名前で登録表示をしまして、成分的にも確立された商品でございます。それについて、先ほど議員さんもおっしゃられたように、8月末現在で2万668袋在庫が残っております。

生産のほうなんですけれども、今年度は3,990袋つくっておりますけれども、大体2割、3割程度ぐらいしか、販売とか、無料での配布というのができてないものですから、年々在庫が残っていくというところでございます。

最近では、在庫のほうがちょっと多くなってまいりましたものですから、環境政策課としても、例えば、馬事公園等での使用だとか、公共施設での使用を進めたりとか、ボランティアのほうの配布を進めるとか、そういうことで、在庫のほうを少なくするというような取り組みをしております。

また今、議員さんのほうからおっしゃっていただきましたけれども、無料化するというところについても、ちょっと検討していかなくちゃいけないんじゃないかなというふうに考えてございます。

○議長（小川 廣康君） 4番、春田新一君。

○議員（4番 春田 新一君） 部長の担当部のほうの部署での考え方というのはわかりました。非常に前向きにそういうことを検討いただいて、何とか結論を出していただきたいというふうに思います。

それと、中部、北部、特に北部ですが、北部、ごみの中継所ですね。中継所のこの人員の配置について、少し質問したいんですが、人員について非常にごみを。これもお盆やらお正月の時期につながるんですが、手不足になるような状況のところが見受けられます。私も何回となく行きましたけど、そういうようなところも、今後、現場と協議をしながら、繁盛期のときには1人人員をふやすとか、そういうような考えで運用していただきたいというふうに思います。

それでは、2項目め、これで終わりました、3項目めにいきたいと思います。

先ほど、教育長のほうから質問はありました。それと、きのうもいっぱい質問、答弁がございましたので、非常に同じような答弁になりますが。

1つ、通学路についてお尋ねをいたします。

校内ではブロック塀は少ない。それから、きのうちょっとおっしゃいましたが、卒業生が記念碑としてつくったいろいろなものが、高さが2メートル、3メートルのものがあると。そういうものについて、余り支障はなかったのかなというような報告、答弁でありました。そういうところはまた、難しい問題もありましょう。しかし、そこはそこで、子供たちが遊ぶのに危険性がなければ問題はないというふうに思いますが、特に、通学路で、通学をしているところのブロックの倒れかかったようなところとか、そういうのが少し見受けられますので、そこら辺の改善策は教育委員会じゃなくして、ある意味これは、新聞にも報道されておりましたが、国の補助金をいただけるなら、そのような形が望ましいというような報道をされておりました。

点検をされて、美津島町の神社から鶏鳴小学校に上がるのところの部分に、もう1年ぐらいになるんですかね。1メートル20ぐらいの高さで、ブロック塀が13メートルぐらいの部分倒れかかっておりますので、危険ですよというコーンは置いてありますが、なかなか傾きがひどくなったときには危ないですので、そこら辺も点検をされて、持ち主の方と協議をされるなり、また、何かの対策で張り紙をされるなりしていただければというふうに思います。まだまだ危ないところは、危険箇所はあると思いますが、今から点検をされてやっていただきたいというふうに思います。

それから、もう時間がありませんが、今、観光客の問題で、非常に比田勝の国際ターミナル付近は、3時半から4時半、5時にかけて非常に韓国人観光客が多いわけですが、そこを子供たちが下校するわけです。ちょうど下校時間に、小学生高学年が下校する時間帯なんですね。西泊、泉というところはバス通学です。しかし、一番子供たちが多い古里がそこを通るわけです。非常にいろいろな事案も発生はしておりますが、事件にはつながっておりません。

そういうことで、これからもこの観光客がふえ続ける中で、対策をひとつ重んじなければいけないのではないかなというふうに思うんですが、教育長にいい案がありましたら、学校側からも話が出るんじゃないかなというふうには思いますが、私としては、先生、これは日韓交流で手をつなごうとか、そういう問題はいいんじゃないですかというような話はいたしましたけど、それが事件につながれば、大変な問題になりますので、そこら辺の対策を今後していかなければいけないのではないかなと思います。教育長の考え方を少しお聞きして。

○議長（小川 廣康君） 時間がまいりましたので、簡潔にお願いします。教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 対馬島内でも許可なく写真をとるであるとか、体にさわるとあるとか、

車に誘うであるとか、そういうことが起こっております。それに対しましては、今のところ、ポスターを、例えば国際ターミナルであるとか、宿泊施設等にポスターを掲示をして、そういう行為をやめていただくようお願いをするであるとか、旅行会社を通じて注意喚起の文書を、配布をするように、今、準備を進めております。

以上です。

○議員（4番 春田 新一君） 以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで春田新一君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 再開を11時10分からといたします。

暫時休憩いたします。

午前10時51分休憩

午前11時07分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。

15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 15番の大浦です。今年の3月までは、私は未来研究会という会派の中で活動してきたわけですが、今年4月から清風会と合流をいたしまして、現在、清風会の会員となっております。

特に、渕上会長が江戸時代の朝鮮半島と対馬の関係、そして、反映されたその対馬藩のことを基本に、今後もそのことを強く取り組んでいきたいというふうな思いでございまして、私もその方向に勉強をしていきたいと、かように思っております。

それでは、一般質問ですが、実は、7月1日、今年、峰町の陸上競技場で全島の陸上大会がございました。その折に巖原のある方が、豪雨による避難勧告があったと、そして、山間部におるために、やはり危険を感じ避難箇所へ参ったと、これは、交流センターの場所は、何階かわかりませんが、そこに行くことで出向いたが、現場ではその表示もされておらず、どこに行ってもいいやらわからんというふうなことをかなりぼやいておられました。

当時、ちょうど副市長もおられまして、多分そのことを耳にしておると思うんですが、それはそれとして、話といたしましては、それから月がたって、7月の西日本の集中豪雨によるこの大災害、これを私、見たときに、広島においては土砂災害、生き埋め、非常に恐ろしいことであります。

それと、岡山においては河川の決壊による増水、愛媛においてもダムが決壊して、国土交通省